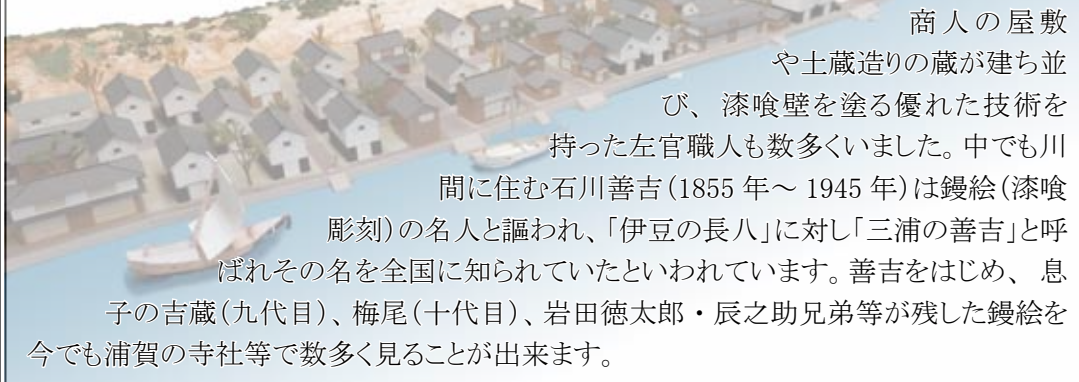


浦賀の鰻絵

江戸時代には東浦賀は干鰯問屋、西浦賀には浦賀奉行所もあったことから回船問屋を中心に、商人の町として栄えました。



商人の屋敷や土蔵造りの蔵が建ち並び、漆喰壁を塗る優れた技術を持った左官職人も数多くいました。中でも川間に住む石川善吉(1855年～1945年)は鰻絵(漆喰彫刻)の名人と謳われ、「伊豆の長八」に対し「三浦の善吉」と呼ばれその名を全国に知られていたといわれています。善吉をはじめ、息子の吉蔵(九代目)、梅尾(十代目)、岩田徳太郎・辰之助兄弟等が残した鰻絵を今でも浦賀の寺社等で数多く見ることが出来ます。

●法幢寺・本堂正面軒下小壁「牡丹に唐獅子」

岩の上で一對の魔除けの神獣、唐獅子が鞠(まり)と紐に戯れる絵に牡丹を配置した図柄で、二面の壁面に連続して描かれています。岩田徳太郎・辰之助兄弟の合作で工夫を凝らした図柄と鰻さばきから非凡な才能が伺える代表作です。



●西叶神社・社務所玄関欄間壁 「司馬温公の壺(かめ)割り」

中国北宋の政治学者、温公が子供の頃、大きな水甕の中に誤って落ちた友人をすぐ石で甕を割って救い出しました。父親が大切にしていた甕を割ってしまい叱られると思いましたが、父親は温公を褒め、改めて人命の大切さを教えたという故事を描いたもので、石川善吉の代表作です。



●川間町内会館・妻壁「鳳凰」・「松竹梅と鶴亀」

二階の切妻壁に「鳳凰」が、玄関の上妻壁に「松竹梅と鶴亀」が描かれ、鳳凰が双翼を広げ飛翔する姿を立体的に壁面いっぱいに描いています。石川梅尾の作品です。



(加藤委員・樋口委員)

□ 渡し舟



就航120周年記念「愛宕丸」



西浦賀側の待合所

東西浦賀を結ぶ渡し舟は、ぼんぼん船の愛称で親しまれ、浦賀のシンボルのひとつです。

この渡し舟は、享保5年(1720年)に浦賀奉行所が設置されてから間もない享保7年(1722年)の記録に「当村には渡船無御座候」とあり、船賃は村中(東浦賀)のすべての家で、一軒あたり米六合ずつとあるので、渡船が操業されたものと判断できます。当時の浦賀には、東西合わせて約千件の家がありました。浦賀町が船を五千円で譲渡してもらい、浦賀町は十七町内会へ五ヶ月の分割で支払う約束をしています。

現在の船は、平成10年8月8日に就航した強化プラスチック製の御座船です。客員定員は12人、片道料金は150円です。航路は「浦賀海道」と名付けられて、横須賀市道第2073号となっています。1日80～250人の利用があり、乗り場に客が来れば対岸にいてもすぐに来てくれます。(横川委員)

□ 燈明堂

慶安元年(1648年)、江戸幕府は浦賀港入口の岬に和式灯台である燈明堂を建設しました。燈明堂はかがり火ではなく堂内で油を燃やすことによって明かりを得ており、堂内には夜間は燈台守が常駐していました。当時は夜間に明かりがほとんどなかったこともあって、燈明堂の明かりは対岸の房総半島からも確認できたとされています。海に突き出た岬上にある燈明堂は、台風などの暴風や大地震による津波によって建物や石垣が崩されることがありましたが、東京湾を通行する船の安全を守る役割を果たしていたため、建物が破損しても直ちに仮設の燈明堂を建設し、約220年間、一日も明かりが絶えることはありませんでした。

明治2年(1869年)、日本初の洋式灯台である観音崎灯台が建設されたことによって、燈明堂はその使命を終え、明治5年(1872年)に廃止となりました。建物は明治20年代まで残っていましたが、風雨で崩壊し、土台の石垣だけが残っていました。平成元年(1989年)にその石垣の上に現在の燈明堂が復元され、周辺も公園として整備が進み、現在は多くの市民の憩いの場となっています。(高橋委員)



information

景観の手続きについて ～ 市内で建築物や工作物の新築、増築、塗替えなど行なう際に必要です ～



色彩基準などについて ～ 横須賀市の景観計画や建築物等色彩協議要綱によって定められています ～

①色彩基準 (マンセル値による彩度基準)  
色彩基準をこえた色彩は周辺と調和せず、街並みとして違和感をもたれるため、鮮やかな色彩を制限する基準を定めています。

②景観計画 基本指針  
良好な景観形成に関する方針として、景観計画では基本指針を定めています。

③その他  
地区によって景観推進地区の地区方針や眺望景観保全基準などがあります。

◆景観が整った美しい街並み  
マボリシーハイツ 鴨居ハイム

◆市の基準を超えている外壁例

色相	彩度
R(赤)、YR(黄赤)	彩度6以下
Y(黄)	彩度4以下
GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)	彩度2以下

お問合せ：横須賀市役所 都市部 市街地整備景観課 景観係 TEL 046-822-8377

第19回都市景観フォーラムを開催します！

- 開催日時：平成26年2月9日(日) 13:30～17:00 (13時開場)
- 開催場所：ヴェルクよこすか 6階ホール(横須賀市日の出町1-5) <入場無料>
- プログラム：メインテーマ 『開国のまち「浦賀」～これからの景観～』
  - ①授賞式 第5回 国際海の手文化都市よこすか景観賞
  - ②基調講演 「開国のまち浦賀の成り立ちと文化、町並み」  
吉田 ゆり子 さん/東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授、歴史学者(日本近世史)
  - ③パネルディスカッション  
コーディネーター：志村 直愛 さん/東北芸術工科大学教授(建築・環境デザイン学科)  
パネリスト：加藤 隆夫 さん/一般社団法人神奈川県建築士会横須賀支部相談役、加藤工務店一級建築士事務所代表  
高須 和男 さん/浦賀地区連合町内会会長、浦賀京浜町内会会長  
富澤喜美枝さん/横須賀市景観審議会委員、横須賀建築探偵団代表  
八木 健一 さん/NPO法人景観デザイン支援機構監事
- 平成25年度よこすか都市景観協議会会員 [順不同]

□正会員 《10団体》(一社)神奈川県建築士会横須賀支部/(一社)神奈川県建築士事務所協会横須賀支部/ミーズ設計連合協同組合/(公社)神奈川県宅建物取引業協会横須賀三浦支部/(公社)全日本不動産協会横須賀支部/横須賀建設業関連団体協議会【(一社)横須賀建設業協会/横須賀建工同志会協同組合/(一社)横須賀三浦建設協会/横須賀電気工事協同組合/横須賀管工事協同組合/横須賀緑化造園協同組合/横須賀三浦塗装工業協同組合/横須賀内装事業協同組合/測新会】/横須賀商工会議所/(公社)横須賀青年会議所/東芝ライテック(株)/横須賀市  
□オブザーバー会員 《3団体》神奈川県横須賀土木事務所/東京ガス(株)横浜支店/東京電力(株)藤沢支社

よこすか都市景観協議会 新会長 増田 務